

外部評価結果

平成27年3月17日(火)実施

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成26年度実績					平成27年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a~d)	e. 計画の妥当性		
栄養疫学 研究部	4.40	4.20	4.20	4.00	4.20		5	(I)各研究部／センターに関わる事項 【平成26年度実績】 ・目標達成は評価できる。情報発信における内容、方法に更なる改善の余地があると思われる。 ・業務から研究も十分行われ。成果にもつながっている。 ・昨年よりも研究成果がより分かりやすくまとめられて説明された。「健康な食事」など、新しい検討会のニーズにもよく対応されている。 ・災害時の栄養に関する取組が意欲的である。 ・十分な成果をあげている。 ・健康・栄養調査は担当者への技術講習情報提供等の支援から迅速な解析が実施されており評価できる。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

外部評価結果

平成27年3月17日(火)実施

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成26年度実績					平成27年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a~d)	e. 計画の妥当性		
健康増進 研究部	4.80	4.40	4.80	5.00	4.75		5	(I)各研究部／センターに関わる事項 【平成26年度実績】 ・興味深い調査研究がなされており研究レベルも高い。遺伝因子の研究は新しいアプローチが必要。 ・十分業績が上がっている遺伝子解析については、今後の方向性について考慮して欲しい。 ・要点をおさえた研究成果が示されている。達成度は、ならずと十分なものが得られている。+10分の成果発信はすぐれている。運動ガイドライン評価のためのコホート研究がすぐれている。 ・興味深い有益な成果をあげている。成果発信も十分行っている。 ・大規模介入研究では、遺伝子研究から日常身体活動量に至るまで多くの研究成果が認められる。今後はさらに食事との関連についての成果を期待する。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

外部評価結果

平成27年3月17日(火)実施

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成26年度実績					平成27年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a~d)	e. 計画の妥当性		
臨床栄養 研究部	4.60	4.40	4.20	4.60	4.45		5	(I)各研究部／センターに関わる事項 【平成26年度実績】 ・現在の遺伝、環境因子の相関に関し最も重要なポイントを意識している点が評価できる。 ・メタボ研究の今後の方向性については十分理解できたが今年度の成果については、はっきりしない。糖尿病発症のメカニズム研究がどのように治療に結びつくかもう少し整理して研究を進めてはどうか。経時的に連続性がない研究の中で、平次評価が正確にされるようになった。 ・かなりむずかしい対象に対して成果を上げつつある。今後の発展へつなげる方向が期待できる。 ・我が国の課題ともいえるメタボリックシンドロームや糖尿病の予防や改善の基礎となる成果が認められる。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

外部評価結果

平成27年3月17日(火)実施

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成26年度実績					平成27年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a~d)	e. 計画の妥当性		
栄養教育 研究部	4.00	3.25	3.50	3.75	3.63		4	(I)各研究部／センターに関わる事項 【平成26年度実績】 ・目標の設定並びにその実施ともに改善の余地がある。 ・食育は非常に重要と考えるが、両研究室共に目標をもう少し具体的に設定してはどうか。H23に担当者実質不在は所の運営の問題。 ・肥満判定ソフトが周知され活用されている点が評価される。 ・ライフステージを通じた食育の効果的な推進の重要性は分かるが、情報伝達や実施段階での対応は難しいと思われる。さらなる検討を期待する。

◎各研究部／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5: たいへん優れている 4: 優れている 3: 普通である 2: 劣っている 1: 非常に劣っている

外部評価結果

平成27年3月17日(火)実施

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成26年度実績					平成27年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a~d)	e. 計画の妥当性		
基礎栄養 研究部	4.25	4.50	4.25	4.00	4.25		4	(I)各研究部／センターに関わる事項 <b>【平成26年度実績】</b> ・妥当な研究内容である。基礎的研究の成果の解釈は慎重になるべきである。エネルギー必要量に関する臨床研究は順調に進んでいる。 ・ヒューマンカロリメータを使用した研究や食事の順番、タイミングに関する研究、小児の研究に期待。 ・基礎研究から人を対象とした研究が実施されている。今後を期待する。やや遅いという感はあるが、実施されていなかった小児や高齢者に対する日本人の調査は評価できる。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

外部評価結果

平成27年3月17日(火)実施

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成26年度実績					平成27年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a~d)	e. 計画の妥当性		
食品保健 機能研究部	4.00	4.00	4.00	3.50	3.88		4	(I)各研究部／センターに関わる事項 【平成26年度実績】 ・基礎的研究の妥当性、方向性が見えない。 ・対外業務の他、研究も良くこなしている。研究テーマの設定については今後整理してはどうか。 ・法定試験等の実施が確実に行われる他、検査法を評価しなおし見直しに反映されるなど、一定の成果が上がっている。効果的に「健康食品」を取り上げ安全性の検討ができています。ビタミンA代謝についても地道な研究が継続されており、成果が期待される。 ・栄養表示において、栄養成分の分析精度の標準化やその維持、向上は重要である。評価できる。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

外部評価結果

平成27年3月17日(火)実施

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成26年度実績					平成27年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
情報セン ター	4.50	4.50	4.25	4.50	4.44		4	(I)各研究部／センターに関わる事項 【平成26年度実績】 ・本研究所の基本業務として重要である。 ・Hfnet(「健康食品」の安全性・有効性情報)、Fosdu(特別用途食品・栄養療法エビデンス情報)等良く更新して発信している。Fosduの中止は残念。サプリ、健康の調査研究は重要。情報センター自体を維持し続けることは所の重要なミッション。 ・健康食品の被害情報は継続的に取り組まれている重要な課題でる。医薬品とサプリメントの関係、病人等のサプリメント利用などの研究テーマが充実している。結果の公表が期待される。情報提供の定型業務は精力的に行っている。 ・限られた人数の中で、対応が確実に行われている。アクセス数の多さや内容の信頼性等高く評価できる。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

外部評価結果

平成27年3月17日(火)実施

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成26年度実績					平成27年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a~d)	e. 計画の妥当性		
国際産学 連携セン ター	4.25	4.50	4.50	4.25	4.38		4	(I)各研究部／センターに関わる事項 【平成26年度実績】 ・特定健診のデータプロセッシングが望まれる。 ・国際対応の独立センターとして良く活動している。今後、産との連携 にトライしてはどうか。統計部門の維持も必要。 ・国際的活動、産学連携活動が活発に行われている。WHO-CCのす べり出しも良好で、今後が期待される。統計解析についても意欲的に レセプトデータ特定健診データが活用され、今日的な課題としての震 災研究が効果的に行われている。 ・国内外での研修生の受け入れや研修会セミナー等実施されており 評価できる。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

外部評価結果

(Ⅱ) 研究所全般にわたる事項

平成27年3月17日(火)実施

評価項目	評価	評価者数	コメント
①研究所の目的、理念に合致した運営がなされているか。	4.50	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容の妥当性についての検討が不十分である。</li> <li>・良好に運営されていると思われる。</li> </ul>
②効率的な組織・予算運営がなされているか。	4.00	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた予算の効果的活用がはかられている。</li> <li>・各部署間のオーバーラップが大きい。</li> <li>・限られた予算での運営がなされていると思われる。</li> <li>・限られた資源でたいへん良く運営されている。</li> </ul>
③研究成果は十分出ているか。(学術論文、学会発表等)	4.75	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分すぎる成果といえる。</li> <li>・部署間の格差が大きい。</li> <li>・十分に成果が出ている。</li> </ul>
④倫理規定、倫理委員会は適切に運用されているか。	4.50	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に運用されていると思われる。</li> </ul>
⑤研究成果の社会還元は適切になされているか。(セミナーの開催、情報提供、知的財産の活用等)	4.25	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後への期待も大きい概ね行われている。</li> <li>・情報ユーザーの満足度の把握がなされていない。</li> <li>・部門によりやや違いはあるが研究所全般としては、適切である。</li> </ul>
⑥他機関との連携や協力は適切になされているか。(受託・共同研究、連携大学院、国際協力、人材育成等)	4.25	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・努力は認められるがさらなる連携が期待される。</li> <li>・十分適切に実施されている。</li> <li>・特許等の出願と共同研究が少し弱かった。</li> </ul>
総合的なコメント			<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期目標が厚生労働省より示されていない中、将来像が見えにくい中で今後の方針についての工夫がなされている。中長期計画は厚生労働大臣との話し合いの中で決められると聞いて安心できた。</li> <li>・栄養疫学研究部と栄養教育研究部、基礎栄養研究部の研究内容の重なりが大きいのではないかと。有効な資金運営、人員配置がなされていない感も若干ある。</li> <li>・限られた予算や人数の中で十分な研究や成果が出されており評価できる。基礎研究が人対象の研究や調査に繋がっており、実践的であると思う。今後も日本人の調査が実施されていない部分でのデータ収集や研究等の継続を望む。</li> <li>・全般的に、交付金予算が大幅に減少するなか、限られた人員で、基礎研究から応用研究まで、また学術論文の発表から対外的なセミナー等の開催まで、極めて効率的に成果を挙げるとともに外部にも発信している。</li> <li>・他機関との連携の内、共同研究数や特許出願数は、幅広く多様な機関と数多く情報交換や情報提供を行った結果が、数に反映される。自ら情報提供や情報交換に努める他、食総研などの関係機関との情報交換を続けるとともに、27年度から統合予定の医薬基盤研究所のルートを使った積極的な展開は考えられないか。</li> </ul>

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

# 独立行政法人国立健康・栄養研究所外部評価委員会委員名簿

平成26年4月現在

委員氏名	所属・職名
五十嵐 脩	神奈川県立工科大学栄養生命科学科 教授
伊藤 裕	慶応義塾大学医学部 教授
逢坂 哲彌	早稲田大学理工学術院ナノ理工学研究機構 機構長
○大谷 敏郎	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所長
加藤 則子	国立保健医療科学院 統括研究官
川島 由起子	聖マリアンナ医科大学病院 栄養部長
下光 輝一	公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 理事長
三保谷 智子	女子栄養大学出版部 香川昇三・綾記念展示室 室長

敬称略、五十音順 ○委員長